

96読者が選んだ10大ニュース(国内)

96/12/24 東京朝刊 特集面 06段

## 番外 ペルー人質事件(日本大使館公邸占拠)

ペルーの首都リマで12月17日夜、左翼ゲリラ「トゥパク・アマル革命運動(MRTA)」の武装グループ約20人が日本大使公邸を襲撃、天皇誕生日を祝うパーティーが開かれていた公邸内に乱入、青木盛久大使のほか、各国大使や日本企業幹部ら約500人を人質にとって、立てこもった。武装グループ側は、服役中のMRTAメンバー全員の釈放などを要求した。

武装グループは20日夜、人質39人を解放し、その後は人質を小刻みに解放しながら要求実現を迫ったが、ゲリラに対してこれまでも非妥協姿勢を堅持してきたフジモリ大統領は譲歩を拒み、こう着状態が続いた。22日夜(日本時間23日午前)、武装グループは人質225人を解放したが、なお140人が拘束されたまま。

### 《関連記事》

[ペルーでゲリラが日本大使公邸を襲撃、占拠 各国大使ら800人人質](#)

(96/12/18)

[ペルー日本大使公邸占拠事件、こう着続く 人質490人、邦人・日系は1](#)

[20人](#) (96/12/19)

[ペルー人質事件 ゲリラ要求すべて拒否 フジモリ大統領、テレビ演説で方針明示](#) (96/12/23)

[天皇陛下、きょう63歳 ペルーの人質事件に心痛](#) (96/12/23)

[ペルー事件 人質225人を解放 大使ら約140人なお拘束 = 号外も発行](#)

(96/12/24)

[ペルー事件 日本大使公邸Xマスイブ、ケーキと和食差し入れ 人質神父がミサ](#) (96/12/25)

[ペルー人質事件 日本人書記官を解放 健康の悪化理由に](#) (96/12/26)

[邦人含む人質20人解放 ペルー政府、初の直接交渉 ゲリラ「対話で退去も」](#) (96/12/30)

### 《その後の経過》

[ペルー公邸、武力突入 全邦人含む人質71人救出 127日目解決 = 号外も発行](#) (97/04/23)

[ペルー公邸武力突入 日本政府、衝撃と安ど感 細かった平和解決の道](#) (97/04/23)

---

[HOME](#)

[TOP](#)

[BACK](#)

96読者が選んだ10大ニュース(国内)

96/12/18 東京夕刊 一面 08段

**ペルーでゲリラが日本大使公邸を襲撃、占拠 各国大使ら800人人質**

【リオデジャネイロ17日=石黒穰】ペルーからの報道によると、同国の首都リマ市内で十七日午後八時三十分(日本時間十八日午前十時三十分)ごろ、多数の武装グループが駐ペルー日本大使公邸=青木盛久大使(58)=近くで爆弾を爆発させた後、公邸を襲撃、占拠した。公邸では当時、天皇誕生日の祝賀パーティーを開催中で、犯人グループは青木大使を含む出席者多数を人質に取り、立てこもっている。現場にはペルー軍当局が到着、犯人グループと銃撃戦を展開した。現地警察当局によると、犯人グループは二十四人と見られ、同国都市ゲリラのトゥパク・アマル革命運動(MRTA)による犯行の可能性が強い。(関連記事14・15面)

天皇誕生日、祝宴中

警察当局によると、人質となっているのはフランシスコ・トゥデラ・ペルー外相や、ブラジル、ボリビア、キューバの各大使、ペルー国会議長ら。

青木大使は当初、人質の数は招待客八百人で、公邸の一、二階にいと伝えていたが、犯人グループがその後、婦人や高齢者ら一部人質を解放。青木大使は地元テレビに、現在六百人 八百人が人質になっていると語った。一方、犯人グループ側は地元ラジオに対し、約二百五十人を人質にしていると述べた。解放された人質の中にはフジモリ大統領の母親が含まれているとの情報がある。招待客の中には、在リマ邦人企業幹部らも含まれている。

大使は携帯電話で外部と連絡を取っているが、犯人グループから日本語での会話を禁じられ、スペイン語で地元ラジオなどと通話している。

一方、犯人グループが爆発させた爆発物は、大型のものが少なくとも一個と、小型のものが二個だったという。爆発は前後六回にわたって起きたとの情報もある。爆発で三人の負傷者が出たとの報道があるが、詳しいことはわかっていない。また、警察などによると、軍と犯人グループの銃撃戦は約一時間にわたり、公邸周囲は狙撃兵らを取り囲んでいる。犯人グループの一部は当初、ボーイ姿で花を持って公邸に侵入したらしい。

犯人グループと見られているMRTAは十七日深夜、地元ラジオ局に電話をかけ、犯行を認めた。同ラジオ局によると、ペルー当局と犯人グループとの間で交渉が行われており、フジモリ大統領との交渉を求めている模様だが、犯人グループは仲間の服役囚の解放を要求、受け入れられなければ人質全員とともに自決す

ると脅しているという。

青木大使は十七日、地元ラジオ局に対し、携帯電話で「今は安全な状態だ。ただ、自由に話すことは出来ない」などと語り、無事であることが確認されたものの、負傷の有無などは確認されていない。

青木大使は一昨年十一月に着任。大使公邸がある一帯は、ペルー市内の高級住宅街。各国の大使館などが集まっている。

#### 女性人質30人解放

ペルーのテレビ「チャンネル5」によると、自動車爆弾が仕掛けられたのは、正門ではなく大使公邸の横にある出席者用の通用口で、事件発生から約二時間後の午後十時半（現地時間）に、女性の人質約三十人が解放された。

公邸の周囲は、武装した警官が取り囲み、ゲリラと警官による銃撃も断続的に続いており、警官による流れ弾が人質にあたる危険が心配だという。

フジモリ大統領は地方遊説中で招待されていなかったが、代わって出席した内務大臣が人質にとられているとみられるという。

#### ペルー、90年に大使館同時テロ

ペルーでは九一年七月、国際協力事業団（JICA）が派遣した農業技術者三人が極左ゲリラに射殺される事件が起きた。同年四月と九〇年十二月には日本大使館など各国大使館で同時多発テロも発生している。また、八七年には日産自動車の現地法人爆破事件や東京銀行リマ支店長襲撃事件も発生。九〇年には旅行中の過激派邦人が射殺される事件も起きている。また、今年五月には、日本赤軍メンバーの吉村和江容疑者がペルー国内で拘束されたが、同容疑者が現地の極左ゲリラと接触を図っていた疑いが持たれている。政府は今年三月以降、ペルー国内の非常事態宣言が出されている地域への観光旅行の自粛を呼びかけている。

HOME

TOP

BACK

96読者が選んだ10大ニュース(国内)

96/12/19 東京夕刊 一面 08段

**ペルー日本大使公邸占拠事件、こう着続く 人質490人、邦人・日系は120人**

加・独大使ら仲介

【リマ18日＝石黒穰】ペルーの首都リマの駐ペルー日本大使公邸で十七日夜起きたペルーの左翼ゲリラ「トゥパク・アマル革命運動(MRTA)」による襲撃・占拠事件は発生から丸一日たった十八日夜(日本時間十九日午前)も、警官隊と武装グループがにらみ合ったまま緊迫した状況が続いている。人質は当初伝えられた二百 三百人ではなく、四百九十人に上り、また日本外務省に入った情報によれば、このうち日本人・日系人も百二十人いることがわかった。武装グループは仲間の服役囚全員の釈放など四項目を一貫して要求、「受け入れられない場合、日本人外交官を殺害する」などと脅迫している。武装グループは同日夕には、ペルー政府との仲介役として人質のカナダ大使ら五人を解放したが、あくまでもフジモリ大統領との直接交渉を要求しており、事態は長期化する様相を見せ始めた。(関連記事3・18・19面)

ゲリラ、大統領に交渉迫る

フジモリ大統領は十八日午後(日本時間十九日未明)、緊急閣議を招集し、パレルモ教育相を犯人側との交渉役に指名、現場に派遣することを決めた。

武装グループ側はこれに対し、十八日午後六時(日本時間十九日午前八時)、カナダ、ドイツ大使ら五人を解放した。カナダのビンセント大使は記者団に対し、「我々は流血を避け、政府とゲリラ側の仲介役を務めるために解放された」と語った後、大統領府に入り、その後、教育省でパレルモ教育相と協議している。五人はパレルモ教育相らに犯人側の要求を伝えたとみられる。

また、十八日夜(日本時間十九日朝)、新たに五人が解放された。地元テレビなどによると、健康上の理由とみられる。

一方、公邸には、カナダ大使らの解放後、食糧や飲料水、医薬品などが赤十字関係者によって運び込まれた。ゲリラ側は、さらにテレビカメラと送信装置を要求している、という。

武装グループ側が一貫して要求しているのは、 1 服役中の仲間の囚人全員(四百 五百人)の釈放と移送 2 日本大使公邸に立てこもっているメンバーと一部囚人の山岳地帯への移送 3 フジモリ政権の自由市場経済政策の見直し 4 「戦争税」の支払い の四項目。「戦争税」はこれまでの内戦でのゲリラ側犠牲者に対する賠償金を意味すると見られる。

さらに武装グループはフランス通信に送った声明の中で、「日本は、国民の大多数に悲劇をもたらしたフジモリ政権を支援してきた」などと、日本政府を厳しく非難している。

一方、武装グループは十八日午前十一時には「フジモリ大統領との直接交渉が受け入れられなければ、トゥデラ外相を最初に殺す」と警告、続いて同日昼すぎには「日本人外交官を殺す」と繰り返し人質殺害を予告しているが、現在まで人質に危害が加えられたとの情報はない。

なお、人質の人数が当初伝えられたものより多いことがわかったのは、公邸内から人質にされているペルーの国会議員の家族にあてて送られたファクスによって。ファクスには「四百九十人」と書かれ、青木盛久大使やペルーのトゥデラ外相らの署名も入っていた。ただ、犯人側が威嚇のため、実際より多くの人質の数をファクスに書かせた可能性も否定できない。

[HOME](#)

[TOP](#)

[BACK](#)

96読者が選んだ10大ニュース(国内)

96/12/23 東京朝刊 一面 06段

**ペルー人質事件 ゲリラ要求すべて拒否 フジモリ大統領、テレビ演説で方針明示**

## 投降なら扱い配慮

【リマ22日＝佐々木良寿】ペルーで十七日起きた左翼武装組織「トゥパク・アマール革命運動(MRTA)」による日本大使公邸占拠・人質事件で、フジモリ大統領は二十一日午後十時四十分(日本時間二十二日午後零時四十分)、事件後初めてテレビ、ラジオを通じ国民に向け演説し、犯人側の要求を一切拒否するとともに、人質全員を解放し、投降するよう求めた。フジモリ政権が事件に対する方針をここまで明確に示したのは初めて。犯人グループのリーダー、ネストル・セルパ司令官(48)はこれに先立ち同日、地元テレビ局との無線交信で、「ペルー政府と関係のない人質は段階的に解放する」などと述べた。しかし、犯人側がペルー政府の強硬姿勢を受け、態度を硬化させる可能性もあり、事態はさらに緊迫している。(大統領演説の要旨4面、関連記事2・4・26・27面)

## フジモリ大統領の演説骨子

テロ行為を手段とする限り、和平や合意についての話し合いはできない。

政府はこれまで、武力解決は計画していない。

殺人、テロに加わった者の釈放は受け入れない。

MRTAが武器を引き渡し、人質全員を解放すれば、政府の武力行使の可能性はなくなる。

大統領は約五分間の演説で、まず「MRTAが和平合意に向けた対話を始めようとしていることは信じられない。人質の首に銃を突き付けたまま対話に臨もうとしている」と強く非難した上で「テロ行為を手段とする限り、いかなる和平や合意についても話し合うことはできない」と現段階では直接交渉を拒否する姿勢を鮮明にした。大統領は「政府はこれまで、武力行使による解決は計画していない。話し合いも拒否していない」としながらも犯人側の服役囚(四百 五百人)全員の解放要求も一蹴(いっしゅう)。「これから作られる保証人委員会に武器を引き渡し、人質を残らず解放せよ」と犯人側に投降を強く迫った。

大統領はただ、「人質と武装グループ双方の人権を侵害しない形での解決を目指している」ともしており、犯人側が呼び掛けに応じ投降すれば、その取り扱い

については一定の配慮をすることも示唆した。

大統領演説に先立つ二十一日午後七時（日本時間二十二日午前九時）過ぎには、セルパ司令官の無線交信がテレビで放送された。同司令官は人質解放の条件として仲間の服役囚全員の釈放を改めて求めた上で、政府と無関係の人質の段階的解放の意向を示し、「大多数は数時間、ないし数日中に解放されるだろう。政府関係者（の解放）は政府の意思次第だ」と述べた。大統領演説はこれに対する“回答”とも言え、政府側が問題解決へ攻勢を強める意向を示したものとも見られる。

この無線交信ではトゥデラ・ペルー外相、青木盛久・駐ペルー日本大使も交信に出て、青木大使は「政府とMRTAとの交渉開始が不可欠だ」と訴えた。

---

[HOME](#)

[TOP](#)

[BACK](#)



96 読者が選んだ10大ニュース(国内)

97/04/23 東京夕刊 一面 10段

**ペルー公邸、武力突入 全邦人含む人質71人救出 127日  
目解決 = 号外も発行**

人質判事と兵士2人犠牲 犯人14人全員死亡

ペルーの日本大使公邸人質事件は、二十二日午後三時二十三分(日本時間二十三日午前五時二十三分)、ペルーの軍、警察の特殊部隊計約百四十人が邸内に突入、犯人グループ、トゥパク・アマル革命運動(MRTA)との間で銃撃戦を展開、四十分後に公邸を制圧した。七十二人の人質のうち、ペルー最高裁判事が死亡したが、青木盛久・駐ペルー大使ら日本人人質二十四人を含め、残る人質は全員救出された。この銃撃戦で、兵士二人とネストル・セルパら犯人グループ十四人全員が死亡した。事件は発生から百二十七日目に、強行突入という形で決着した。突入に際し、日本政府に事前通告はなかった。解決後、橋本首相は、フジモリ・ペルー大統領と電話会談し、謝意を表するとともに、事前に連絡がなかったことについて、「遺憾だが、理解する」と語った。一方、フジモリ大統領は現場で、「テロリストに絶対屈しないという模範を国際社会に示した」と、事実上の勝利宣言をした。

**大統領が勝利宣言**

【リマ22日 = 平石冬樹】強行突入は、大きな爆発音とともに始まった。これを機に、公邸周辺に潜んでいた、ペルーの陸、空、海三軍とペルー国家警察特殊部隊などの計約百四十人が一斉に邸内に突入した。一部の部隊は、ペルー当局が掘っていた公邸につながるトンネルを使って潜入、邸内外で犯人グループと銃撃戦となり、公邸周辺は自動小銃の発射音や特殊音響せん光弾とみられる爆発音が続いた。

部隊は約四十分後の午後四時二分に公邸を制圧、公邸屋上では、数人の兵士が高く腕を掲げ、勝利のポーズを見せ、掲げられていたMRTAの旗を引きおろした。四、五十人の兵士が軍の行進歌を大声で歌う姿もみられた。

救出された人質によると、突入時、MRTAのメンバーは一階のサロンでサッカーをしていたといい、不意を突いた白昼の作戦が成功した。また、複数の人質によると、一部の人質には、突入の約十分前に実行が知らされ、二階の部屋に入るように指示されたという。

この銃撃戦で、ペルー人人質のカルロス・エルネスト・ジュスティ・アクニャ最高裁判事が足に負傷、病院に収容されたが、失血によるショックで死亡したほか、警察・軍部隊の二人も死亡。公邸を占拠していたMRTAのメンバー十四人が死亡した。セルパは二階の階段付近で死体で発見された。

青木大使ら日本大使館員、日本企業関係の人質二十四人は全員救出され、日本政府の現地対策本部などによると、十六人が足の骨を折るなどのけがをしているが生命に別条はない。また、ペルー人質のルイス・セルパ最高裁判事が腹部に、フランススコ・トゥデラ外相が足にそれぞれ銃弾を受け、病院に収容された。

フジモリ大統領は午後四時半、防弾チョッキ姿で公邸に姿を現し、約三十人の人質と百人近い兵士を前に勝利宣言。この三時間後、演説を行い、突入は午後三時十七分に大統領自らが最終指令を出したことを明らかにし、「あらゆる平和的手段を尽くしたが、MRTA側が全く歩み寄りを示さなかった。人質を無事に救出するために急襲作戦を選択した。我々は国際社会に対し、ペルーがテロを容認せず、テロに屈しない強い決意を持っている姿勢を示すことができた」と、武力突入に理解を求めた。

また、「残念ながら一人の死者を出した。家族に哀悼の意を表する」と述べた。

#### 解放の邦人人質

日本人の人質と負傷の状況は次の通り。（敬称略）

#### 企業関係者 12人

【ペルー三井物産】小林正己（48）（軽傷）【ペルー松下電器】滝滋（59）（打撲程度）【三井金属】北川嘉昭（50）（足に軽いすり傷）【日商岩井】佐藤繁徳（48）（かすり傷程度）【ペルー味の素】酒井芳彦（50）（軽傷）【丸紅】斎藤慶一（49）（足首にねんざ）【ペルートヨタ】富田勝（53）（軽傷）【兼松】森園寛（56）（足に軽いねんざ）【ペルー三菱商事】宮下昭（55）（両足のかかと骨折）【トーメン】岩本匡司（57）（軽い打撲）【ニッコー・クリエイティブ・サービス】杉丸政則（50）（右足に軽い切り傷）【日本鯉鮪漁協組合連合会】河上楯夫（52）（軽傷）

#### 日本大使館 12人

青木盛久・大使（58）（軽傷）、木本博之・公使（58）、砂見文夫・一等書記官（62）、坂井正博・同（47）（軽傷）、仲江肇・同（37）（軽傷）、三村晴夫・同兼医務官（42）、板垣克己・二等書記官（35）、中村英男・同（36）（軽傷）、小倉英敬・同（46）、両角博人・同（39）、扇山明久・同兼派遣警備官（34）、山本進二・二等理事官（35）

[HOME](#)[TOP](#)[BACK](#)